

| | 日時/会場 | 題 目 | 座長および話題提供者 |
|---------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 防災関係 | 【研01】 9月7日(水) 13:00-15:00 | 河川堤防の安全性を如何に守るか —今後数百年を見据えて— 地盤工学委員会・堤防小委員会 http://committees.jsce.or.jp/jban/ | 座長(予定) 岡村未対 愛媛大学 話題提供者(予定) 小高猛司 名城大学 前田健一 名古屋工業大学 内田龍彦 中央大学 服部教 国総研 佐々木哲也 土木研究所 笠井雅也 国土交通省水管理・国土保全局 |
| | B棟B101教室 | 河川堤防はいかに形状規定で築堤され、近年ではそれに加えて浸透や滑り破壊に対する安全率ベースの詳細点検が行われ、弱部を抽出して対策が施されている。しかしながら、その膨大な延長に比べて堤体や地盤の調査は極めて限定的であること、詳細点検の精度が必ずしも高くないこと、未だ整備が未完了の区間を多踏することなど、多大な問題を抱えている。また、集中豪雨の頻度が増加してゆくことを考えると、長期的な視野に立った河川堤防の整備方針は重要である。本討論会では、極めて長期間に亘り維持管理をし、かつ必要な強化しながら供用されている我が国の河川堤防について、その維持管理や設計の方針とそれに伴い必要となる技術について長期的な視野に立ち議論する。続いて現状の形状規定と詳細点検(安全率ベース)による照査技術、現地調査技術などの個別要素技術の現状と課題、新規技術開発について話題提供し、討論する。 | |
| | 【研02】 9月7日(水) 13:00-15:00 | 原子力関連施設と断層変位 原子力土木委員会 http://committees.jsce.or.jp/ceofmp/ | 座長(予定) 小長井一男 横浜国立大学、原子力土木委員会副委員長 第一部 丸山久一 原子力土木委員会委員長 竹村公太郎 現代社会と原子力—資源取巻の歴史の果てに 講師調整中 浮かび上がるリスクコミュニケーションの課題 第二部 小長井一男 横浜国立大学、原子力土木委員会副委員長/土木学会での取組み 講師調整中 原子力学会での取組み 蛭沢勝三 電中研、原子力土木委員会副委員長/海外での取組み |
| B棟B102教室 | 将来変位する可能性のある断層等の直上への原子力施設の設置は、平成25年施行の新規制基準では論外で、地盤変位に対する科学的検討は思考停止のままである。しかし、地盤変動による変位の帯が断層から離れて現れたり、浅層地盤の破壊によって地盤が動くこともある。断層の直上に在ろうがなろうが変位の可能性に対して、高度に複雑な施設への影響と安全性、また深刻な事態に至った場合の対応までを考えなければならないのが、東日本大震災から我々が得た教訓であろう。とすればタブー視されかねないこの課題に対して土木学会原子力工学委員会や関連学会が目立たず積み上げてきた検討の成果を報告し、社会への還元に対して幅広く議論する。 | | |
| 【研03】 9月7日(水) 13:00-15:00 | 災害廃棄物の発生量予測・処理・復興資材活用システム計画 環境システム委員会 http://committees.jsce.or.jp/envsys/ | 座長(予定) 片谷孝孝 桜美林大学/環境システム委員会前委員長 話題提供者(50音順、予定) 青山和史 鹿島建設環境本部/日本建設業連合会 遠藤守也 仙台市環境局長 勝見 武 京都大学/地盤工学委員会副委員長 森口祐一 東京大学/環境システム委員会委員長 吉岡敏彦 東北大学/廃棄物資源循環学会副会長 | |
| A棟A307教室 | 東日本大震災においては、膨大な量の災害廃棄物や津波堆積物が発生したが、多くの課題を抱え、一部の地域を除いて目標年限とされた震災後3年で処理が完了した。この間、現場における処理記録がりとまとめられるとともに、災害廃棄物の発生量の予測、処理計画の策定、選別・処理・復興資材化技術などに関する調査研究が盛んに行われ、今後の大規模災害発生を見据えたり体系的な処理システムの計画に活用しうる幅広い知見が蓄積されてきた。本研究討論会では、災害廃棄物処理の実務の専門家と交え、熊本地震への対応状況も含めて土木分野の幅広い関係者が知見を共有することで、今後の災害への備えの一助とすることを狙いとする。 | | |
| 【研04】 9月7日(水) 13:00-15:00 | 「防災・減災・復旧への構造的アプローチと木材利用の可能性」 木材工学委員会・構造工学委員会 http://committees.jsce.or.jp/mokuzai/ http://www.jsce.or.jp/committee/struct/framepage2.htm | 座長 佐々木貴信 秋田県立大学;木材工学委員会木橋研究小委員会委員長 話題提供者 小野秀一 一般社団法人日本建設機械施工協会 施工技術総合研究所 大江克之 株式会社田川インフラ建設 橋梁事業部 遠藤雅司 国土交通省東北地方整備局 道路部 後藤文彦 秋田大学理工学部 平沢秀之 函館工業高等専門学校 | |
| B棟B103教室 | 東日本大震災に対する生活基盤の復旧に全力が尽くされているところではあるが、一方で、今後に備えて災害時に被災地の生活基盤を速やかに復旧するための仮設構造物が求められている。木材は、軽く、加工が容易であり、入手しやすいことから、災害時において応急的な建設資材として活用できる分野があると考えられる。本討論会では東日本大震災における構造物の被害事例や復旧における応急仮設構造物の適用例、最新の技術を紹介しただけにとどめ、木材を活用した防災・減災・復旧へのアプローチの可能性を探る。 | | |
| 【研05】 9月7日(水) 13:00-15:00 | 津波減災のための事前対策政策とその社会実装可能性の検討 減災アセスメント小委員会(海岸工学委員会と土木計画学研究委員会の合同) http://www.coastal.jp/ja/index.php http://www.jsce.or.jp/committee/ip/index.shtm | 座長 岡安章夫 東京海洋大学 話題提供者 岡安章夫 海岸工学・東京海洋大学教授 平野勝也 計画学・東北大学准教授 河野達仁 計画学・東北大学教授 安田誠宏 海岸工学・関西大学准教授 井上智夫 海岸工学・国土交通省海岸部長 多々納裕一 計画学・京都大学教授 | |
| A棟A401教室 | 政府の地震調査研究推進本部が2014年12月に発表した「全国地震動予測地図」によると、今後30年以内に震度6弱以上の地震に襲われる確率は、横浜市、千葉市、水戸市および高知市が70%を超え、静岡市と和歌山市が60%〜70%、奈良市や大分市が50%となっている。このように、全国的に人口密度も高い地域で発生しつづる震災への対策が急務となっている。そこで、震災に対する減災のために、a)震災前に対処すべきハードおよびソフトの予備的対策、さらに、b)震災後の復旧・復興において行うべき政策の制度設計を事前に行う必要がある。そこで土木学会において、2014年10月に減災アセスメント小委員会を立ち上げ、これまで研究会を行ってきた。これまでの1年強の活動の成果である、1)津波の規模と発生頻度との関係の定量化手法(津波ハザードモデル)についての最先端研究とその利用可能性、2)減災のためのハード・ソフト施策の効果の定量化に対する都市均衡モデルの利用可能性、3)整備すべき防潮堤高の検討に必要な情報と考え方の整理について報告する。 | | |
| 環境関係 | 【研06】 9月7日(水) 13:00-15:00 | 気候変動への適応研究推進に向けて! 水工学委員会 http://committees.jsce.or.jp/hydraulic/ | 座長 中北英一 京都大学防災研究所 話題提供者 有働志子 東北大学 風間聡 東北大学 神田学 東京工業大学 宮本仁志 芝浦工業大学 森信人 京都大学 矢野真一郎 九州大学 藤田光一 国土技術政策総合研究所 |
| | C棟C200教室 | 地球温暖化時の降水・洪水への適応策の提案だけでなく、水循環や水環境を含めた気候変動の影響評価、適応策の提案が必要であると考えられる。しかし、影響評価研究に比較して、適応策の提案研究が十分に進み活用されているとは言いがたい。そのため、気候変動の様々な分野への影響が明らかとなっていることを踏まえ、適応に向けたより一層の研究推進および成果の発信が必要であるとする。本討論会においては、トッピングとしての基本計画的な位置づけでの実務機関と気候研究コミュニティの連携を促し、かつトップアップとして、水工学として適応のために議論・研究しておくべき「外力や環境の変化に伴う技術、計画論とは何か?」、水工学の観点から議論するものである。 | |
| 社会インフラメンテ関係 | 【研07】 9月7日(水) 13:00-15:00 | 鋼橋の長寿命化に向けて—防食技術の進むべき方向— 鋼構造委員会 http://committees.jsce.or.jp/steel/ | 座長 貝沼 重信 九州大学(鋼構造委員会 鋼構造物の防食性能の回復に関する調査研究小委員会 委員長) 話題提供者 下里 哲弘 琉球大学 高木 千太郎 (一財)首都高速道路技術センター 坂本 達朗 (公財)鉄道総合技術研究所 前田 博 (一社)日本橋梁建設協会 貝沼 重信 九州大学 |
| | B棟B200教室 | 重要な社会資本である橋梁の高齢化が進む中、その長寿命化は喫緊の課題である。今後は、限られた予算の中で維持管理を着実に実施し、効果的・効率的に橋梁を長寿命化していくことが求められる。腐食は鋼橋の主な損傷原因となっており、防食機能を長期の間維持し、不具合があればその機能を確実に回復していくことが長寿命化の実現に向けて大変重要である。このような状況を受け、様々な社会環境の変化に伴う要求性能の多様化にも応えつつ、鋼橋の防食機能を長期にわたって維持するための技術が研究・開発されてきている。本討論会では、鋼橋を対象として、防食技術の現状と課題について概観し、課題の打開策や進むべき方向について議論する。 | |
| その他 | 【研08】 9月7日(水) 13:00-15:00 | 人口減少下における市民合意形成 土木学会コンサルタント委員会市民合意形成小委員会 http://www.jsce.or.jp/committee/kenc/index.asp | 座長 上野俊司 国際航業株式会社 話題提供者(予定) 森本康倫 岩田大学理工学術院 社会環境工学科 教授/「宇都宮LRT導入経緯と市民合意形成」 菅井秀一 岩沼市役所/「玉浦西一市民参加のまちづくり」 白水清郎 中央復建コンサルタント株式会社/「官民連携事業を通じた被災地再生における市民合意形成」 伊藤特司 株式会社山崎コンサルタンツ/「人口減少下における新たなまちづくりの市民合意形成の視点」 |
| | B棟B202教室 | 人口の減少や少子高齢化を背景として、多様な世代にとって快適な生活環境の提供と、持続可能な都市経営の実現が課題となっている。そのような状況下において、新たな公共交通の導入や公共施設の再編など、都市の縮退や統合等これまであり経験をしていないまちづくりがはじまっている。 本研究討論会においては、当委員会がこれまで活動してきた社会資本整備や防災まちづくりの市民合意形成に関する研究成果を踏まえ、先進事例を紹介しながらこのような新たな動きの中で求められる市民合意形成について、議論を深めてみたい。 | |
| 【研09】 9月7日(水) 13:00-15:00 | 測る×コンピューティング 応用力学委員会 http://www.jsce.or.jp/committee/amc/index.html | 座長 寺田賢二郎 東北大学 話題提供者(予定・案) 高野 直樹 慶應義塾大学/題目:計測とモデリング 八嶋 厚 岐阜大学/題目:地盤構造物に関する計測技術 谷 和夫 東京海洋大学/題目:実大規模実験の現状と意義 | |
| B棟B203教室 | 「測る(計測、実験、現地調査)による現象の直接的観察は、過去から現代までの科学の発展を支えてきた。日進月歩で発展する計測技術は、計測対象や時空間のスケールの幅を増や拡大しており、これに高度に発展したコンピューティング(数値解析やデータ分析)技術を融合することにより、現代や将来の応用力学の可能性を高める強力な武器となる。本討論会では、現代の「測る」に基づく工学の新展開、および現代の高度に発展した「コンピューティング」との融合によって広がる可能性について議論する。 | | |

| 日時/会場 | 題目 | 座長および話題提供者 |
|---------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 【研11】 9月7日(水) 13:00-15:00 A棟A200教室 | 生産性および品質向上のためのコンクリート工学を目指して コンクリート委員会 http://www.jsce.or.jp/committee/concrete/index.html | 座長(予定) 中村光 名古屋大学 話題提供者(予定) 石橋忠良 JR東日本コンサルタンツ(株) 岩崎福久 国土交通省 河田孝志 清水建設(株) 佐藤和徳 国土交通省東北地方整備局 田村隆弘 徳山工業高等専門学校 二井谷教浩 オリエンタル白石(株) |
| 【研12】 9月7日(水) 13:00-15:00 B棟B201教室 | 市民のイマジネーションに働きかける土木広報～市民へ伝える土木の心～ 土木広報センター http://committees.jsce.or.jp/cprcenter/ | 座長 依田照彦 土木広報センター長 話題提供者 伊藤博英 宮城県建設業協会専務理事 井上圭介 国土交通省東北地方整備局企画部企画調整官 高橋良和 京都大学工学部准教授 羽賀翔一 淺草家 平原由三枝 NHKエンタープライズ経営企画室業務主幹 緒方英樹 土木広報センター社会インフラ解説グループ長 |
| 【研13】 9月7日(水) 13:00-15:00 B棟B204教室 | 「Innovation～若手技術者による土木「革新」～」 企画委員会 若手会員パワーアップ小委員会 http://committees.jsce.or.jp/kikkau/ | 座長(予定) 未定 企画委員会「若手会員パワーアップ小委員会」の委員 話題提供者(予定) 未定 企画委員会「若手会員パワーアップ小委員会」の委員 他 |
| 【研14】 9月9日(金) 13:00-15:00 B棟B204教室 | 「東日本大震災から5年経たず復興状況から今後の下水道の在り方を考える」 環境工学委員会 http://committees.jsce.or.jp/ee/ | 座長(予定) 李 玉友 東北大学 話題提供者(予定) 加藤 裕之 国土交通省 渋谷 昭三 仙台市建設公社 小川 浩 常葉大学 |
| 【研15】 9月9日(金) 13:00-15:00 B棟B101教室 | 「災害時における情報技術の果たすべき役割」 土木情報学委員会 http://committees.jsce.or.jp/cceips/ | 座長 時苗 耕司 宮城大学 話題提供者 遠藤 和重 復興庁岩手復興局 大元 守 石巻市 杉浦 伸哉 (株)大林組 横尾 泰広 国際航業(株) 渡辺 豊 ルーチェサーチ(株) |
| 【研16】 9月9日(金) 13:00-15:00 B棟B203教室 | 放射性汚染廃棄物対策技術～除去土壌の減容・再生利用方策等について～ エネルギー委員会 http://committees.jsce.or.jp/medob/ | 座長(予定) 大西有三 関西大学客員教授/京都大学名誉教授 話題提供者 未定 塚塚省 勝見 武 京都大学 佐藤 努 北海道大学 万福裕造 農業・食品産業技術総合研究機構 河西 基 791大成基礎エンジニアリング/電力中央研究所 |
| 【研17】 9月9日(金) 13:00-15:00 A棟A307教室 | 地域社会の安全を目指したレジリエンスエンジニアリング 安全問題研究委員会 http://www.jsce.or.jp/committee/csp/csp1.htm | 座長 白木 渡 香川大学 話題提供者 広兼道幸 関西大学 深谷純子 関西レジリエンス研究所 藤巻英明 鹿島建設 井藤由紀 社会安全研究所 磯打千穂子 香川大学 未定 香川県危機管理総局 |
| 【研18】 9月9日(金) 13:00-15:00 B棟B102教室 | ビッグデータと舗装 舗装工学委員会 http://www.jsce.or.jp/committee/pavement/index.html | 座長 姫野賢治 中央大学 理工学部 都市環境学科 (舗装工学委員会委員) 話題提供者 大廣智則 (株)NEXCOエゾ・フランク北海道/路面状態判定装置(CAIS)を活用した効率的な冬路面管理について 佐々木 博 (株)国土交通省/道路データ・サービス社会の効率的な維持管理の実現～道路の簡易点検から始める長寿命化～ 白井 健 (株)NIPPO/スマートを用いた段差管理の効率化 八木浩一 パンフレコード(株)/スマートフォンによる路面性状ヒックデータの生成と活～平常時活用と熊本地震での路面損傷検出事例～ 今野野頼 JIPPA/オニス(株)/IRの精度向上に向けた取り組みについて |
| 【研19】 9月9日(金) 13:00-15:00 A棟A200教室 | 水工情報システムの発展 水工学委員会 http://committees.jsce.or.jp/hydraulic/ | 座長 立川康久 京都大学大学院工学研究科教授 話題提供者 山川正 中央大学理工学部都市環境学科教授 山崎将生 国土交通省国土技術政策総合研究所河川研究部水循環研究室室長 風間聡 東北大学大学院工学研究科教授 渡邊明英 (株)東京建設コンサルタンツ土木事業本部環境防災本部環境防災研究所所長 平塚 三登建設エンジニアリング(株)データシステム事業所都山支所所長 高橋範仁 (株)建設技術研究所東北支社河川部主幹 旭一 岳 (株)RiverLink代表取締役 |
| 【研20】 9月9日(金) 13:00-15:00 A棟A401教室 | 【実験における地盤材料の評価 一水理学的アプローチと地盤工学的アプローチ一】 海岸工学委員会 http://www.coastal.jp/ja/index.php | 座長 水谷法美 名古屋大学大学院工学研究科社会基盤工学専攻 話題提供者 鈴木高二朗 港湾空港技術研究所海洋研究領域波浪研究グループ グループ長 鈴木崇之 横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院 都市地域社会専攻 飛田哲男 関西大学環境都市工学部都市システム工学科 松田達也 豊橋技術科学大学建築・都市システム学系 |
| 【研21】 9月9日(金) 13:00-15:00 B棟B103教室 | 因った時の複合構造物 ～施工性の改善と今後の課題～ 複合構造委員会 http://www.jsce.or.jp/committee/fukugou/index.html | 座長 奥井義昭 埼玉大学 話題提供者 伊原茂 首都高道路(株) 街道浩 川田工業(株) 加藤敏明 (株)大林組 吉市耕輔 鹿島建設(株) |

防災関係

その他

水理模型実験の縮尺設定に際しフルード相似則を用いることが多い。しかし地盤材料を扱う場合、その幾何形状を厳密に適用することは難しい。そこで水理学分野では、同質かつ小さな材料が一般的に用いられてきた。一方、地盤工学分野で従来から活用されてきた連心載荷装置を用いた水理模型実験手法が開発され、学会でも数々の適用事例が報告されている。しかし従来の水理学分野で用いられていた相似則を前提とした場合、過去の研究討論会でも議論を重ねてきた通り、複合構造物が様々な工上の課題を解決する有効な手段となることがあり、実際に採用された事例が見られる。本討論会では、複合構造物の採用により、施工に対する課題を解決した事例を紹介頂き、その有効性を確認するとともに、さらなるコスト削減や工期縮減などの施工の合理化を実現するために必要となる材料間での精度管理や点検方法の整合性などの課題を抽出し、将来的な複合構造物標準仕様・施工性の改訂に資する意見を頂くべく議論を行う。

| 日時/会場 | 履 目 | 座 長 | 話 題 提 供 者 | 座 長 お よ び 話 題 提 供 者 |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 【研22】 9月9日(金) 13:00-15:00 B棟B104教室 | 今後の公共事業発注者のあり方を考える 建設マネジメント委員会 http://committees.jsce.or.jp/cmce/ | 座長 話題提供者 | 木下 誠也 福本勝司 遠藤敏雄 後藤隆一 安田吾郎 千葉嘉寿 吉田正喜 | 日本大学危機管理学部 ㈱大林組 ㈱復建技術コンサルタント、(一社)建設コンサルタント協会東北支部長 宮城県土木部 国土交通省東北地方整備局 熱海建設㈱、(一社)宮城県建設協会会長 UR都市機構宮城・福島震災復興支援本部 |
| 【研23】 9月9日(金) 13:00-15:00 B棟B201教室 | 土木構造物共通示方書の位置づけと学会示方書のあり方 構造工学委員会 http://www.jsce.or.jp/committee/struct/framepage2.htm | 座長 話題提供者 第一部 第二部 | 中村光 本間淳史 幸左賢二 佐藤尚次 鈴木誠 石橋忠良 渡辺忠朋 下村匠 山口隆司 小島芳之 木村嘉富 本間淳史 | 名古屋大学教授、構造工学委員会副委員長 NEXCO東日本/基本編 九州工業大学/構造計画編 中央大学/性能・作用編(作用) 千葉工業大学/性能・作用編(性能) JR東日本コンサルタント 北武コンサルタント 長岡技術科学大学 大阪市立大学 鉄道総合技術研究所 国土交通省国土技術政策総合研究所 NEXCO東日本 |
| 【研24】 9月9日(金) 13:00-15:00 C棟C200教室 | インフラ維持管理・更新におけるイノベーションの創造と地方インフラのマネジメント アセットマネジメントシステム実装のための実践研究委員会/土木学会技術推進機構 http://committees.jsce.or.jp/opcnet/ | 座長(予定) 司会(予定) 話題提供者(予定、案) | 藤野陽三 前川宏一 田中泰司 小澤一雅 六郷恵哲 松田浩 岩城一郎 岡田有策 神田昌幸 | 横浜国立大学 東京大学 東京大学生産技術研究所 東京大学 岐阜大学 長崎大学 日本大学 慶応大学 国土交通省都市局 |
| 【研25】 9月9日(金) 13:00-15:00 B棟B202教室 | 「土木学会東日本大震災アーカイブサイトの今後の展開(その3)ー震災映像が語る現場からのメッセージー 土木技術映像委員会 http://committees.jsce.or.jp/avc/ | 座長 話題提供者 | 大野 春雄 熊谷 順子 大沢 美春 小野寺 誠 他 | 土木学会土木技術映像委員会委員長(建設教育研究推進機構理事長・攻玉社工科大学名誉教授) 元 東北地方整備局企画部防災課長 現(株)復建技術コンサルタント事業企画本部長 (独)鉄道建設・運輸施設整備支援機構 気仙沼商會 |
| 【研26】 9月9日(金) 13:00-15:00 C棟102教室 ※会場変更のお知らせ I-8セッションおよび研究討論会26は、会場手配の関係でA201からC102に会場変更となりました。 | 土木計画学50年の研究成果-実践とリサーチの観点から- 土木計画学研究委員会 http://www.jsce.or.jp/committee/ip/index.shtml | 座長(予定) 話題提供者(予定、案) | 塚井誠人 栗林純(広島大学) 稲村肇(東北工業大学) 藤原修(東北大学) 森杉壽芳(東北大学) | 広島大学 開き手:原(東北大学)/国内研究環境、新テーマ発掘 開き手:塚井(広島大学)/学産の学際フロンティア発掘 開き手:山口(京都大学)/新分野(景観)の社会実装 開き手:円山(熊本大学)/新分野(費用便益)の社会実装 |
| 【研10】 9月9日(金) 13:00-15:00 A棟A202教室 | 宇宙開発に貢献する建設用ロボット技術 ～宇宙/土木分野の連携・相乗的発展に向けて～ 建設用ロボット委員会 http://committees.jsce.or.jp/robot/ | 座長(予定) 話題提供者(予定、案) | 建山委員長 未定 | 建設用ロボット委員会 宇宙探査イノベーションハブ事業担当者(JAXA)および同事業参画の建設系企業等から5名程度 |

本討論会では、実践リサーチの仕組の中で成果を上げられた先生方を登壇者に迎えて、「これまでのハード整備にこめられた“よき社会”のイメージ・コンセプトをきちんと認識・継承した上で、現状の課題解決に結びつく具体的なインフラ整備や関連制度に翻訳するよき一連の活動」について、お話を伺います。どのような出会いやきっかけが先生方の活動につながったか、優れたリサーチと優れた実践を生み出す場づくりについて研究者や社会に求められる姿勢、新分野を社会実装されたあとのご自身のスタンスの姿、今後の土木計画学や、または開拓された分野の後進に対するご期待について、フロアの聴講者と率直な意見交換が行います。

21世紀を誇り、今、人類の活動領域を月や火星にまで拡大しようとする議論が世界で活発化してきています。宇宙航空研究開発機構(JAXA)では、平成27年度から、異分野からの人材・知識を結集した研究拠点「宇宙探査イノベーションハブ」が設置され、革新的な宇宙探査技術の研究開発が進められています。地上の建設用ロボットの技術開発が進められる中、共通課題も少なくなく、宇宙分野への応用と地上への還元が期待されています。本研究討論会では、宇宙探査イノベーションハブ事業担当者(JAXA)と同事業に参画する建設系企業等から話題提供を頂き、両分野の技術のニーズやシーズの共有を図るとともに、今後の相乗的な技術進展に向けた意見交換を行います。